



さとのかせ

No.171号

千葉県いすみ環境と文化のさと

2010年4月1日発行

編集・発行 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター

指定管理者 (財) 千葉県環境財団

〒298-0111 千葉県いすみ市万木 2050 番地

TEL 0470-86-5251 FAX 0470-86-5252

URL <http://www.isumi-sato.com/>

五 節 供



「節句」(せっく)は、辞書では「節供」の文字が先に記載されています。年中行事として、年に何回かある重要なふしめのことです。五節供(五節句)があり、それは正月7日(人日(じんじつ))、3月3日(上巳(じょうし))、5月5日(端午(たんご))、7月7日(七夕)、9月9日(重陽(ちょうよう))という五種類です。中国から伝えられ、江戸時代に民間に普及しました。迎えた神にお供え物をして、あとで神人共食することによってその霊力を身につけようとしたもののようです。おせち(御節)料理とは、正月に限らず本来は「節の日」全般の食べ物を指す語だったといわれています。

最近では、子どもたちの健やかな成長を祈る節供が、盛んに行われながら残っているようです。

春祭り（はるまち）の話

春祭りのことを夷隅郡市周辺では「はるまち」と言います。もともとは、神社やお寺で行われる春のお祭りのことで、五穀豊穰を願って行われるものが多いようです。このお祭りは集落ごとに行われていたようですが、現在、大きなものとしては次のようなものがあります。

- ・天神社の祭り（3月25日）
- ・国吉の不動祭り（3月28日）
- ・大原の八幡祭り（4月1～3日）
- ・覚翁寺の祭り（4月5～6日）
- ・夷隅神社の祭り（4月10日）

これらの祭礼はちょうどお彼岸頃のため、植木類の移植に好時期であるので植木市と呼ばれていますが、植木類の交換・売買が起源であったようです。

①天神社の祭り（いすみ市岬長者）

「天神社の祭り」は夷隅郡市の春祭りの最初に行われます。植木市のほか、露店などが立ちます。

「岬町史」（昭和58年 岬町史編さん委員会編）によると、「明治・大正・昭和初期の時代は、他に適当な娯楽施設がなかったため、天神社の境内は玩具屋（おもちゃ屋）や駄菓子類の販売の屋台店が所せましと立ちならんでいた。特に見せ物小屋の出し物（珍奇なもの）の陳列、小型サーカス、田舎芝居）に人気があった」とあります。



天神社のはるまちの様子

②国吉の不動祭り（いすみ市荻谷）

「国吉の不動祭り」、通称「フドウマチ」はいすみ市荻谷の宝勝院というお寺で行われています。

現在は植木市と露店、カラオケ大会などが中心ですが、「昭和の歩み、私の証言」（平成6年 夷隅町史編さん委員会）という本には、「フドウマチ」が子供たちの大きな楽しみであったことが書かれています。それによると、お祭り当日2日前にはサーカスの小屋掛けが、前日には沢山の植木が道ばたに並べられて植木市が始まります。当日はおどろおどろしい極彩色の看板を掲げた見せ物小屋や、沢山の露店が立ち、サーカスのジンタ（明治初期に日本に入ってきた西洋軍楽の大衆化された演奏形態で、ジンタッタ、ジンタッタと聞こえることが語源）の響きなどで、午前10時頃の人出は最高潮になり、刈谷の大通りいっぱいの人が、寺の参道のそれも露店で狭くなった間を、押し合いへし合い通るのだから大変だった、とのことでした。

③大原の八幡祭り（いすみ市大原）

「大原の八幡祭り」は通称「ハチマンマチ」と呼ばれ、4月1～3日に行われます。このお祭りは彼岸も過ぎて農作業も始まり、学校の新学期が始まる時期に行われ、入学用品や作業道具を整えるために、近在から多くの人が集まったようです。

「大原町史」（平成5年 大原町史編さん委員会編）によれば、「本殿北側（現駐車場付近）にはサーカスなどの大きなテントが張られ・・・（中略）・・・ミニ動物園もきたことがある。西側には見せ物小屋が並んだ。・・・（中略）・・・南から東側の境内や外の道にかけては、木の香の高い建具屋の縄ばりであった。梯子・風呂桶・臼・縁台からまな板まで並んでいた。刃物屋も何軒か店を張り、鋏や鎌や大工道具を名調子の口上で売っていた。南町通りは今と同じく植木市が立っていた。草花は少なく植林用の苗木や植木が主体であった」そう、往時の賑やかさがしのべれます。

④覚翁寺（かくおうじ）の祭り（勝浦市）

勝浦市の春祭りは、「続 勝浦こぼればな

し」(井桁重太郎著)によると、「明治40年に始まり、最初の年は4月1～3日でしたが、その後4月6～8日に変更された」とのことですが、現在は4月5～6日となっています。他の地域と同様、昔は覚翁寺境内に見せ物小屋やサーカスなどあったようですが、現在は縁日や植木市が中心のようでした。

⑤夷隅神社の祭り(大多喜町新丁)

「夷隅神社の祭り」は、宮司さんの話によ

ると昔は見せ物小屋やサーカスが出たそうですが、現在は露店が中心で、植木市は翌日の4月11日に立つそうです。

このように、「はるまち」は春の到来を喜び、田んぼ作業の始まりを告げる行事であるとともに、人々のささやかな楽しみでもあるようです。「はるまち」が終わる頃、田んぼに水がはられ、生命力が満ちあふれるようになります。

取材協力：夷隅神社、いすみ市郷土資料館

■いすみ環境と文化のさとセンター周辺の

お勧めポイント案内(2)

今回は、「文化」一歴史のある場所です。

磯の観察会を行う予定です。

・お勧めポイント③—清水寺(きよみずでら)

天台宗のお寺で807年、慈覚大師が開基したと伝えられ、京都の清水寺とも兄弟寺です。千手観音像を本尊とし、坂東32番札所となっています。十一面観音像(県指定文化財)があり、周囲の森は、千葉県郷土環境保全地域に指定され、「照葉樹の森」としていすみ環境と文化のさと一番目のスポット地区になっています。

・お勧めポイント④—飯縄寺(いづなさん)

808年、慈覚大師の開山とされ、正式名は無動山飯縄寺。徳川幕府の知恵袋として知られる天海と縁があるお寺です。関西の彫り物師の間で「関東では波を彫るな」と言わしめた初代「波の伊八」武志伊八郎信由45才壮年期の彫刻「天狗と牛若丸」や堤等琳雪山の墨絵のある本堂があり、千葉県の文化財に指定されています。12月に「火防・盗防」の御祈祷(ごきとう)・稚児さんの行列、2月末に大護摩供養の行事があります。

・お勧めポイント⑤—岩船地藏尊

海に突き出た岩場が境内となっている日本岩船三地蔵尊のひとつ。「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」に認定されている海と漁村の景観が望めます。周辺では夏場は磯の観察もでき、カニやイソギンチャクなど磯の生き物と出会うことができます。ネイチャーセンターの行事で、今年の5月15日に、

・お勧めポイント⑥—行元寺(ぎょうがんじ)

行元寺は、849年に慈覚大師によって伊東大山(大多喜町)に草創されました。幾度となく戦禍に遭遇して、万喜城主土岐氏の祈願寺ともなり、天正14年(1586年)6月に現在地に移築しました。江戸時代は、上総・安房に末寺96か寺を有する大寺院として、関東天台の中核をなし、学問寺および祈願寺として発展しました。

茅葺の客殿欄間には、武志伊八郎信由、通称「波の伊八」の作品で「波と宝珠」の彫刻があり、葛飾北斎の『富嶽三十六景 神奈川沖浪裏』の元になったのではないかとされています。

一方、本堂には、江戸時代に彫り物棟梁として活躍した公儀彫物師、名工高松又八の作品「牡丹に錦鶏」があります。豪華絢爛の桃山文化の雰囲気漂う作品です。彼のほとんどの作品が戦争で焼失したため、幻の名工と言われたのですが、いすみの行元寺で確認され、鑑賞することができます。

いすみ環境と文化のさとにおいでの際に、一緒に立ち寄ってみてはいかがでしょうかでしょう。



夷隅の方言の紹介 - 第 2 回 -

前号に続き、夷隅の方言について紹介します。

一言に夷隅の方言と言っても、漁師町と近くの農山村のものが混じっており、その人の会話を聞くと、漁師町の人、町場の人、農家の人であると判ります。最近では、方言よりも標準語が多く使われ、方言自体が風化していると思います。

さて今回は、動物の呼名の方言です。

方言	標準語
アング	ヒキガエル
オオヘビ	アオダイショウ
ガチャガチャ	クツワムシ
クッチャミ	マムシ
ケラトト	ケラ
ハガチ	ムカデ
メイメンカンカ	カタツムリ
モクゾ	モクズガニ
モグロ	モグラ
モンズ	モズ

(農村地域)

ただのカエルは“ゲール”なのに、ヒキガエルになると“アング”になったり、ヘビ

もそれぞれ独立した呼び名があったりと、その違いを比べると面白いものです。

さて、☆ **方言クイズ** ☆ です。



そんなにオシャレして何処にいくだー



陽がクレッカラしまうべー



向こうの山にケブが出テッ
ケンガ火事かな

判りましたか？ヒントは、横のイラストです。答えは、後の 11 ページをご覧ください。

方言はその地域にとって、特別な言葉だと思います。その言葉が消えてしまうというのは寂しいですね。

昭和 30 年代の子どもの遊び

子供の遊びには色々あります。昨今では、テレビ等のゲームが主流ですが、今回は昭和 30 年代の夷隅（深谷）における遊びについて紹介します。

● けえっぼり（掻い堀り） ●

段差のついた田んぼの水の出口（方言で「ミノテ」という）には、畳 1~2 畳、深さ 0.5~1 m 位の水の溜まる場所がありました。それを「おっぼり」又は「どんぶり」といいます。小川にもこの様な場所があり、この水溜まりには小魚が棲んでおり、泥んこになりながら、この水をバケツで汲みだして水底の小魚を捕らえる遊びです。子どもたちにとって、夢中

になる大変楽しい遊びでした。

この遊びは夏から秋にかけて行われ、あまり早過ぎると田に水を入れている段階なので大人に叱られ、遅すぎると水が無くなっているという、稲作と沿った遊びでした。おっぼりではフナ、コイ、エビ、ウナギ、そうめんこ（うなぎの稚魚）、もくぞう（モクズガニ）などが捕れました。また、今は天然記念物となっている「ミオブタ（ミヤコタナゴ）」も捕まえることがありました。捕まえた小魚は持ち帰り、おかずとして食卓に上がりました。ただ、ミオブタは苦くて不味いので食べることはあまりありませんでした。

現在は、農業基盤整備により「おっぼり」や「どんぶり」も無くなり、また、水路もコンクリートで造られ水溜りも無く、フナやコイ等の小魚の棲む場所が見られなくなりました。そのためこの遊びもできなくなってしまいました。今あったら子供にとっては最高の遊びになると思います。



● コマ回し ●



正月になると、近所の子供が数人集まり庭先でコマ回しをして遊びました。最初に一人がコマを回し、それをめがけて叩

きつけるようにぶつけ、先に回っていたコマの回転を止める。そうすると、次の子供が回っているコマをめがけぶつけ回す。これを順次行っていく、この際コマに当たらなければ即負けとなる。最後に勝ち残ったものが「天下」といい、勝者となる。コマを回すのには麻縄を使い、高学年になると、自分で麻を叩き出して麻縄を作りました。

コマ回しは土の上で行われ、硬すぎず柔らかすぎずという土が良いのです。今の各家庭の庭は、芝やコンクリートとなっておりコマを回す場所が無く、現在は見られなくなっている遊びです。

(いすみ市深谷在住 62歳男性)

●●アオサギ 参上!! ●●

2010年1月27日、館内にアオサギ侵入です。

発見したのは、来館者の方でした。

事務所にいらした方に「サギが中にいますけど飼っているのですか？」と尋ねられました。

何のことだ？と現場に向かうと、積んだムシロの上に静かにたたずむアオサギが……。

慌てて写真撮影を始めると、おもむろにムシロ織機の上に立ちあがり、館内をぐるぐる飛び回り始めました。外に出てもらおうと、全ての扉を開いたのですが、天井付近を飛ぶため出られず、図書室の上にとまりました。天井の排煙用の小窓を開けると、お騒がせアオサギはそこから外に飛び去って行きました……。



ムシロ織機のそばで静かに仁王立ち



正月用お飾りと一体化しています

跡には、フンや吐き出したペリットが残されました。最近、アオサギはセンター敷地の池や水路でよく見かけます。田んぼの迷惑もののアメリカザリガニ(侵略的外来種)の味を覚えて捕食していることが、ペリットから確認できました。

その後、センターの梁に並んでいる鳥の紹介イラストに欠落していた「アオサギ」が追加されました。

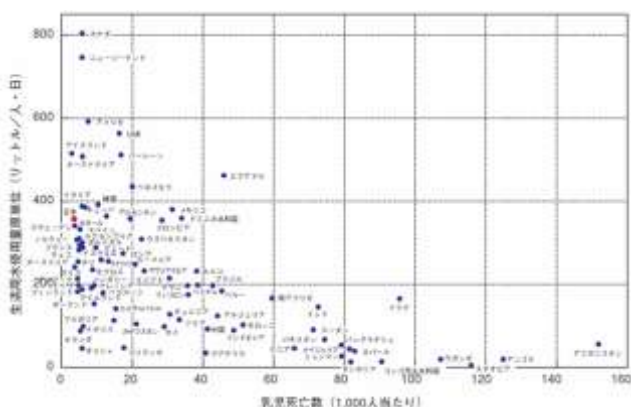
民話「鶴の恩返し」を思い出しました。少しだけ期待していますよ、アオサギくん。

地球環境問題のいろいろ -② 再び、水について-

前回に引き続き「水」のお話です。私たちは生活の中で、どれくらいの水を消費しているかご存知ですか。全国平均で一人 305 ℓ/日です(出典 1)。1990 年代後半は一人当たり 320 ℓ/日以上でしたが、その後は徐々に減少してきていることから、節水に成功していることとなりますね。

ただ、水使用量にも地域差があり、前述の資料によれば沖縄地方の 337ℓ/日から北海道の 273ℓ/日まで開きがあります。目を世界に向けてはどうでしょうか。平成 16 年版日本の水資源によれば、20 世紀末の都市での比較ですが、カナダのトロントでは 517ℓ/日、アメリカのシアトルでは 299ℓ/日、フランスのパリでは 212ℓ/日、ケニアのナイロビでは 116ℓ/日などが紹介されています。

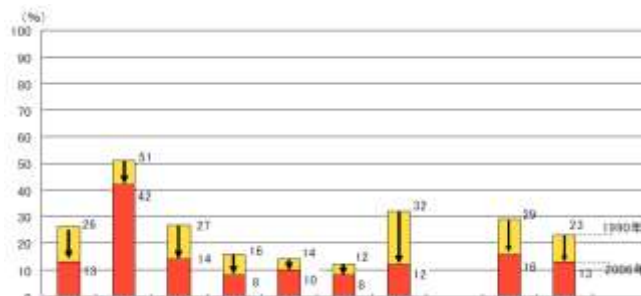
また、やはり平成 16 年版の資料によれば一人当たりの水使用量と乳児死亡数が下図に示されています。元データが違うために水使用量は前述とは違う値になっていますが、この図から水を使えないと乳児の死亡数が多くなるという関係を見て取れます。多い国では 10 人に 1 人以上の乳児が死んでいるという事実があるのです。



各国の乳児死亡率と生活用水使用量原単位 (出典 2)

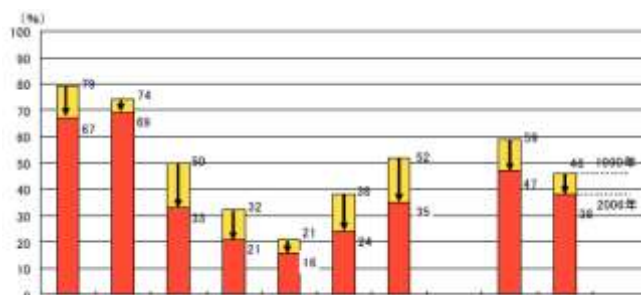
水は何も飲むためだけにあるわけではありません。手を洗い、食べ物を洗い、食器を洗い、煮炊きをし、と私たちの生活からは切り離せません。安心して使える水がないために、乳児たちは死んでいくのですが、多くは感染症で下痢などを発症しながら亡くなっていくと言われています。

そこで、2000 年 9 月ニューヨークで開催された国連ミレニアム・サミットに参加した 189 の加盟国は、21 世紀の国際社会の目標として国連ミレニアム宣言を採択しました。国連のミレニアム開発目標(MDGs)です。この中のターゲット 7-C では「2015 年までに、安全な飲料水と基礎的な衛生設備を継続的に利用できない人々の割合を半減させる。」という目標を掲げています。



安全な飲料水を継続的に利用できない人々の全人口に対する割合 (出典 1)

図で見れば、世界平均で 1990 年の 23%から 2006 年には 13%に改善されました。しかし、依然として安全な飲料水を継続して利用できない人口は 8 億 8400 万人います。目標の 2015 年は目の前に迫っていますが、果たして達成することが出来るのでしょうか。



基礎的な衛生施設を継続的に利用できない人々の全人口に対する割合 (出典 1)

基礎的な衛生施設を継続して利用できない人口の割合も世界平均で 1990 年の 46%から 2006 年には 38%に改善しましたが、これも道は遠そうです。

[出典]

- 1.平成 21 年版日本の水資源、国土交通省水資源部
- 2.平成 16 年版日本の水資源、国土交通省水資源部

ミヤコタナゴとセンターでの展示

ミヤコタナゴとは、関東地方だけに分布する日本固有種です。東京都文京区小石川にある、現在の東京大学附属植物園内の池で採集された個体に基づき、1909年新種として発表されました。「東京のタナゴ」という意味で「ミヤコタナゴ」と名付けられました。



(センターで展示中のミヤコタナゴ)

ミヤコタナゴは高度経済成長期の始まりと共に急激に減少し、1974年に国の天然記念物に指定されました。しかし、その後も減少が続き、1994年に「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」で「国内希少野生動植物種」にも指定されました。それでも減少や地域絶滅が続き、現在確実に生息が確認されるのは、千葉県の数か所と栃木県の2か所だけであるといわれています。かつては千葉の多くの地域でミョウブタ（大原町）、オシラクブナ（東総・南総）、ジョンピー（御宿町）などと呼ばれ、フナと同じように身近な存在でした。

生息地は丘陵地の谷や水田脇の小川など、小河川の流れるところと生息します。繁殖期には、オスでは頭部に追い星（白い粒状のもの）が出現し、朱色、紫、白、及び黒色の極めては鮮やかな婚姻色が体に現れます。メスははっきりとした婚姻色は出ませんが、産卵管という管が尾びれの末端に達するほど伸びてきます。

タナゴ類は産卵方法が特異で、イシガイ科二枚貝類のマツカサガイ、ヨコハマシジラガイ、時にドブガイなどの、貝のエラの中に産卵（托卵）します。卵は貝の中でふ化し、卵黄を吸収し終わると外に出てきます。

ミヤコタナゴの減少原因の1つとしてあげられことは、生息環境の変化です。これは、産卵するイシガイ類の減少原因にもあてはまります。水田の圃場整備（乾田化、河川の掘下げ、流路の直線化、コンクリート護岸化）・堰の形成などによる河川環境の単純化や分断、都市化などにより、生息地が失われているのです。また、観賞魚としての密漁も大きな問題です。

センターでは、平成14年産まれのみヤコタナゴを平成15年から飼育、展示しています。当時は100匹飼育していた…という話を聞きましたが、現在その個体群は3匹を残すのみとなりました。そこで、新たに平成22年2月2日に、平成18年産まれのおス10匹、メス7匹をミヤコタナゴ繁殖施設から譲り受けました。



(繁殖施設からの移動)

センターでもミヤコタナゴの繁殖に取り組み、昨年8月に貝を使用した際には、3匹誕生しましたが、現在も生存しているのは1匹のみです。今年はドブガイを使用した繁殖を試みます。3月中旬、婚姻色がはっきりし始めたら、ドブガイをミヤコタナゴの水槽に移します。産卵が成功していたら、20日間前後に稚魚が貝から飛び出してきます。産卵が成功していたら、4月中旬には稚魚の展示もできているかもしれません。婚姻色は繁殖期の3月～秋口まで出ています。とても鮮やかな姿なのでぜひ、観賞しにいらしてください。

参考文献

- ・千葉県の自然誌 本編6 千葉県
- ・日本の淡水魚 山と溪谷社

田んぼの生き物 ～初春から初夏にかけて～

初春、田植えのために田の準備をします。まず田の土を掘り起こし、硬い土を細かく砕く粗起こし（田起こし）をします。次にあぜの防水性を高める「くろ塗り」という作業をします。センターでは、2月20日から田に水を入れ作業を始めました。田に水が入ると、田の中で冬の寒さと乾燥に耐えていた生き物たちは活動を始めます。

まず大きな変化として現れるのは、ニホンアカガエルの産卵です。ニホンアカガエルの産卵は、1月～3月とまだ寒い時期に、水の抜けきらない田などで行われます。センターでは、粗起こしで掛けた耕運機の轍(わだち)に溜まった水を、めざとく見つけて産卵したのもありました。センターの田には、前記事(4頁)「おっぼり」のような場所があります。そこは水量も多いので、大人気スポットとなり、日を追うごとに卵塊が増えていきます。



(ニホンアカガエルの卵塊)

また、冬のあいだ田の水が抜かれほぼ無くなる中、このおっぼりには水が残ります。そのためドジョウの稚魚、マツモムシの幼虫、アメリカザリガニの幼体等様々な水生生物がここで冬を越します。

くろ塗りも終わり、いよいよ田に水が溜まり始めると、浅く張られた水の中でマルタニシやウマビルたちが活動を始めます。水面では、アメンボの泳ぐ姿が見られます。ありがたいことに、このころから畦に穴を開けて冬ごもりをしていたアメリカザリガニも穴から出てきます。小さなプランクトン達も活発に泳いでいる姿がみられます。

3月になると、田にはアカガエルと交代するように、シュレーゲルアオガエルがやってきます。土の中で鳴いていることが多く、産卵も土の中で行われるので、姿を見ることは少

ないかもしれませんが、ニホンアカガエルに似た姿で「コロコロ、ココココ、ケケケー」と鳴きます。



(シュレーゲルアオガエル)

田植えが終わり、いよいよ田んぼらしい姿になった4月下旬～5月上旬になると、次はニホンアカガエルの産卵が始まります。アカガエルの卵は小さな塊で、水面を漂って稲などの茎に付着します。なんと、産卵後2日で孵化します。オタマジャクシはミジンコを食べてすくすく育ちます。

田を利用する昆虫では、この時期コオイムシの姿が見られます。背中に卵を背負ったオスが、稲の間を泳いでいます。産まれた幼虫は、田の中で小さな水生生物を食べて成長します。6月中旬ごろ、アオイトトンボの羽化が始まり、その後ノシメトンボ、アキアカネ、ナツアカネとトンボの羽化が続きます。



(アオイトトンボの羽化)

魚類では、ドジョウが水路から田に入り産卵します。植えられたばかりの稲の間を、するすると抜けながら泳ぐ大きなドジョウを見ることができます。

盛夏になり、稲も生長すれば次は昆虫たちで賑わうようになります。それを狙って肉食性の昆虫やクモ、鳥、カエルたちが集まります。更に、それを狙ってヘビやアライグマ、タヌキ等の動物が集まります。こうして田は、様々な生き物たちが時期を変え生活する場となるのです。

《 行事報告 》

12月12日

米作り4・もちつきをしよう



大人26人、小人12人、計38人の参加がありました。

子供も大人も、皆さん杵を持って、お餅をつきました。ついたお餅は、その場で食べる分と、鏡餅、切り餅の3つに分けました。味は、あんこ、きなこ、からみで、からみ餅のダイコンはセンターで収穫したものです。

また、一緒にお出ししたお味噌汁の具の、長ネギと白菜もセンターで収穫したものです。最後に鏡餅と切り餅をお土産に配り、終了しました。

行事終了後の感想では、初めての経験だったという大人の声もあれば、懐かしい経験だったという声もありました。

12月23日

米作り5・おかざりをつくろう



午前・午後、各20名の参加で、計40名の参加がありました。京神（きょうしん）のワラで本体を作り、ウラジロシダ、ユズリハの葉、ダイダイの実、ご幣を飾りました。

飾りに使用するものにも意味があり、先祖代々（ダイダイ）次第（ウラジロシダ）に譲る（ユズリハの葉）という語呂合わせからだそうです。シダがウラジロシダなのは、腹に何も隠していないですよという意味があるそうです。

難しい講座でしたが、皆さん大変楽しかった、また来年も参加したいといった声も多く聞こえ、大成功の行事となりました。

1月17日

そばうち体験をしよう



大人18名の参加がありました。半数が初めての方、半数がそば打ち体験者でした。

いすみ市のつどいの家の調理室と作業室をお借りして実施しました。打ったそばは、すぐにゆでて、できたての味を堪能しました。練りや切り方によって味や食感も変わるので、皆さんで食べ比べをしていました。

自分で、苦労して打ったそばの味は、みなさん「格別においしい味でした」との感想をいただきました。また、和気あいあいとそば作りができ楽しかった、また来年も参加したいといった感想を多く頂きました。

1月24日

米作り6・わらぞうりを作ろうー米作り最後の行事ー



大人9名、小人1名、計10名の参加がありました。

わらぞうりは、わらぞうり作り機という先が3つ叉に分かれたものに、縄をかけてワラを編みこみながら作ります。足の部分を作った後は、鼻緒を作って取り付けます。初めて作られる方は、なかなか段取りがつかめなかったようですが、講師の方やボランティアの方の助けもあり、最後まで作り上げられました。

世界に一つの自分だけのわらぞうりを作ることができ、大変満足していただけたようです。

2月7日

水辺の鳥たちを観察しよう



大人6名の参加がありました。観察場所は、夷隅川河口周辺でした。

河口、干潟、海岸線、海岸林（防風林）の4つの環境で鳥を観察しました。お天気は良かったのですが、風が強く、鳥を見るのには少々適さない日でした。それでも20種類の鳥が観察できました。

★観察できた鳥★

カンムリカイツブリ、カワウ、ウミウ、コガモ、オカヨシガモ、カルガモ、ホオジロガモ、ダイサギ、アオサギ、タゲリ、ノスリ、トビ、ビンズイ、ジョウビタキ、ツグミ、ウグイス（鳴き声）、メジロ、カワラヒワ、カモメの仲間、大型ツグミ

2月20日

つるでかごを作ろう



大人18名の参加がありました。竹かごに次ぐ、当センターの人気行事でキャンセル待ちも多数出ました。

今回はクズのつるを主に使って、かごを作成しました。つるも参加者の皆さんが、自分で採取しに行きました。

講師から基本の作り方を習うと、それぞれ思い思いに目指す形のかご作りに専念していました。

終了後のアンケートでは、自分でつるを取りに行くところからできたのが良かった、とても楽しく作成できた、自然とふれあうことができた、といった感想を多くいただきました。

☆行事報告の詳しい内容は、センター日誌 (<http://isumisato.exblog.jp/>) にてご覧いただけます。

これからの行事案内

4月

●センター周辺のいきもの観察

10日(土)10:00~12:00 雨天順延 11日 定員 20名

センターの春のいきものたちを観察しよう!

対象:小学4年生以上 場所:当センター

持物:寒くない服装

※センター周辺は、カントウタンポポがたくさん咲いています。外来のセイヨウタンポポ、中間種も観察できます。タンポポ博士になれるかも?

●万木城までの自然観察と里山ハイキング

24日(土)10:00~14:30 定員 20名 雨天中止

春の万木城周辺を自然観察しながらハイキングしましょう。

対象:小学4年生以上

持物:飲物、弁当、山歩きできる服装

場所:スポット地区①—万木の丘—

5月

●米作り1・田植えをしよう

1日(土)9:30~14:00 定員 40名 雨天順延 2日

秋の収穫への第一歩。裸足で田んぼに入り、自分の手で苗を植えよう!

対象:小学生3年生以上 参加費:一家族 500円

場所:当センター

持物:お弁当、飲物、着替え

●山田の鍾乳石と歴史の小さな旅

8日(土)10:00~12:30 定員 20名 雨天順延 9日

珍しい穴堰と鍾乳石、いすみ市郷土資料館を訪ねてみよう!

対象:小学3年生以上

持物:飲物、山歩きできる服装

※岩盤をくり抜いて作られた田んぼの用水のための貯水槽、「穴堰」は、珍しいものです。地形的に高い所にも水を引いて水田耕作を可能にする先人の知恵と努力を感じますよ。

●岩船で磯の観察をしよう

15日(土)9:30~12:30 定員 20名 雨天順延 16日

いすみの岩船の磯にはどんな生きものがいるかな?

対象:小学4年生以上 場所:いすみ市岩船の磯

持物:飲物、水中で履く靴(サンダルは不可)、軍手

※大潮で潮が良く引く時をねらって磯の観察に出かけます。カニ、イソギンチャク、ヤドカリ、ウミウシ、ヒトデ、アメフラシ、、、何が見つかるでしょう?



6月

(4月1日から受付開始)

●ホタルの里でホタルを見よう

5日(土)18:00~20:00 定員 20名 雨天中止

ゲンジボタルの集団発光を、山田・ホタルの里で観察しよう!

対象:小学3年生以上 場所:スポット地区⑦

※田植えが済んでしばらくした頃、闇夜にゆったり飛翔する優雅な光は、日本の原風景と忘れていた時の流れを感じさせてくれます。

●センター内小川でのホタル観察会

12日(土)18:30~20:00 定員 20名 雨天順延 13日

ゲンジボタルが今年もセンターの小川で見られるかな?

対象:小学3年生以上 ※サンダルでの参加不可

●太東の岬で海辺の自然を観察しよう

19日(土)10:00~12:00 定員 20名 雨天順延 20日

太東の岬周辺を歩いて、海辺の自然(植物・地質など)を観察しよう

対象:小学生4年生以上

持物:飲物、歩きやすい服装

場所:太東ハイキングコース周辺

※九十九里の南端から見える砂浜と磯・崖。外房の海岸の風景や特徴、そこに生きる海辺の植物、鳥などを楽しみましょう。

●いすみ健康草履をつくろう

27日(日)10:00~15:00 定員 12名

ワラに似た質感のPP(ポリプロピレン)ひもを使っていすみ健康草履をつくろう

対象:小学4年生以上 参加費:1500円

持物:工作ばさみ、飲物、弁当

7月

(5月1日から受付開始)

●ハスの観賞週間

4日(日)~11日(日) 随時見学自由

きれいに咲くハスの花を観賞しましょう。日の出と共に開花します。

対象:特になし 場所:当センター蓮田

※初夏に咲くハスの花は、その桃色がとても涼しげで透明感があります。ハスの花に囲まれて、さわやかな香りにつつまれてみませんか?

●海辺の植物観察

24日(土)9:00~11:30 定員 20名 雨天順延 25日

日本で最初に指定された天然記念物「太東海浜植物群落」に行きます。

対象:小学4年生以上 持ち物:飲物、帽子

場所:「太東海浜植物群落」指定地周辺

☆方言クイズ答え☆

- ・そんなにおしゃれしてどこ行くのですか
- ・陽が暮れるから終わりにしましょう
- ・向こうの山に煙が出ているけど火事かな

センターの生き物たち



オオシマザクラ／バラ科

センターにはソメイヨシノをはじめ、様々なサクラの木があります。その中で、デイキャンプ場の前の山に自生するオオシマザクラは大変見事です。

ソメイヨシノより開花が早く、去年の記録では3月29日に満開になりました。ソメイヨシノは同じ日に開花しました。今回のさとのかぜが発行される頃には、センターでサクラのお花見ができることでしょう。

写真のオオシマザクラは去年の4月2日に撮影したものです。



トウキョウサンショウウオ（卵囊）／サンショウウオ科

群馬を除く関東地方から福島県にかけて分布する両生類です。産卵期は1月～3月のまだ寒い頃に、水辺周辺の林などから水辺に降りてきて、バナナ状の卵のうを1対産卵します。

成体は産卵期以外水辺に降りてこないため、姿を見る機会は通常稀です。近年生息地の土地開発等により、急激に数を減らすのではないかと、危惧されています。

センターでは、2月に採集した卵のうの展示と、昨年幼生から飼育している成体の展示を行っています。

いすみ楊枝 —千葉県伝統工芸品—

センターでは、「いすみ楊枝」を県内外に広く紹介するため、毎月高木守人氏に実演をお願いしています。

日時 毎月第3日曜日(9:30～16:00)

場所 ネイチャーセンター

講師 高木守人 氏

参加料 無料

内容 楊枝・花入れ・茶杓作り など

編集後記

ホームページをリニューアルしました。ブログも更新を続けています。その結果、日々の話題などタイムリーな情報発信はアクセス数の増加につながりました。しかし、こちらへ来ていただけることには結びつかない現実があります。

また、センターで飼育展示している国指定天然記念物のミヤコタナゴに若い新顔が仲間入りしました。野生では個体数が激減しています。トキのように、野生に戻すために大変な金額を投じなければいけないかもしれない時期が、目前に迫ってきているようです。

皆様のご来館をお待ちしています。 所長

行事への参加申し込み、お問い合わせは、電話(0470-86-5251)、ファックス(0470-86-5252)、または、直接センター事務室にお申し出下さい。定員のあるものについては、定員になり次第締め切らせていただきます。あらかじめご了承下さい。全ての行事はネイチャーセンターに一度集合してから移動します。

*eメール可(メールアドレス:senta-sato@isumi-sato.com(すべて半角小文字です))

*行事申し込み後、都合によりキャンセルする場合は必ず早めにセンターまでご連絡下さい。

◆ ◆ ◆ 利用案内 ◆ ◆ ◆

休館日：毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12月29日～翌年1月3日

開館時間：9:00～16:30、入館料：無料

※当施設のご案内や解説などを希望される団体は、2週間前までにお申し込み下さい。